＜健康と安全管理＞

なぜ、現地校のPE教育は日本のそれとは違うのでしょう。知人で小学校の校長をしていた方にPEについて聞いたことがあります。

その方が「自分が小さい頃は」といろいろ話してくださった内容が、私が日本で受けた体育教育とほとんど変わらないものだったようです。そして、20年ほど前、PEの時間の事故が続き、学校が保護者から訴えられる事態になり、徐々に変わらざるを得なかったと。先生は、教育に政治的配慮がなされるのは決してよくないことだが、安全の管理について訴訟問題が増加する傾向を考えると、生徒の安全を守るためのやむない選択だったのだろうと、残念そうでした。それでも最後は、カリキュラムは毎年見直しているので、今のPEがずっと続くのかどうか、また昔のような授業内容に戻るかもしれないと、教育者の意見らしい事を一言。

その話を聞いてから後、高校の頃の長女の事で記憶に残っているPEの話が一つあります。引越しで編入学した新学期が始まってみると、「学校で決められた体操服を着ないと、授業に出ても単位をもらえないから絶対に買って」と、長女がいつになく必死。PE先生から「住宅街へ迷い込んで3時間くらい帰ってこれない（こない？）迷子（エスケープ？）の生徒がかならずいるので、体操服を着用してこない生徒は授業に参加させない」と、言われたためです。それまでの小・中学校では学内で行われたのですが、高校では近隣の丘陵を走るのがPEらしく、スクール・カラーのTシャツと半ズボンは先生の目印とするためだったのでしょう。それにもまして、案外、校長先生から聞いた事情もあるのかしらと考えました。

＜体育教育＞

今回このPEをテーマとして書くため、日本の「体育」について調べてみました。

ある文献に、「運動技能を経験によって獲得し、健康・安全に関する知識を身につける。これによって運動能力の習得と体力向上、生活態度の育成を目指す。」とあり、さらに「体育は、英語のphysical education（身体教育）の訳語として戦後の教育改革において新しく導入された科目である」との記述がありました。戦後とありますから、アメリカから導入されたのでしょうか、驚きです。輸入された日本では本来のその教育の姿があり、本家では目指していたはずの教育の姿も形も見られない状態なのですから。

我が家の子ども達のスポーツ・クラブ通いは、アメリカのPEが子どもの身体を鍛えるに不十分だと判断した結果の選択です。目的は、スポーツを定期的に続けることで体力だけでなく、持久力、瞬発力、集中力など身体の持つ能力を伸ばし、道具を使った運動に親しませるためでした。特に水泳は、家庭で必要と思わなければ子どもは泳げないままですから、子ども達の水難から身を守ることをも考えての教育でした。

次女・2年生：Pee Wee Baseball

子どもが生まれた瞬間から、家庭でそして学校でと、子どもの成長に手を貸して育てます。その中の一つが学力であり、また運動能力もその一つで、心身の鍛錬が目的です。アメリカの学校で、日本のように健康・安全の両面が学校教育の中で実践されてものという定義があるのかどうか、それは分かりません。ですが、残念な事に我が家の子ども達が通った学校区は、それが家庭の選択だと考えなければなりませんでした。私の体育に対する選択意識しだいでは、どうにでもなってしまったのでしょう。

子どもらがアメリカでも日本と同じような教育が受けられるとは限りません。アメリカは、自国の事情にそって子ども達を教育しているのですから。

松本 康子　（まつもと やすこ）

1979年、夫の留学で、1歳半の長女を帯同し渡米。その後、アメリカで次女、三女を出産。専業主婦として子育てと教育を担当。

子ども達は、親から見てうらやましいバイリンガル・バイカルチャーの大人に育ちました。しかし、「アメリカで日本人の子どもをバイリンガルに育てた」私が、実は、子どもに育てられていたのです。このコラムでは、「海外でともに育った母と子」の姿を紹介させていただきます。

皆さんの海外での子育ての参考になりますでしょうか？

「アメリカの学校には、なんで体育の授業がないの？」という質問や疑問が、お母さん方からよく出されます。

小学校でのPEへの疑問から、子ども達の体力向上と健康を考えて実践した活動の、体育会系の康子さんの体験記でした。

子どもの運動能力や体力向上を目指した活動は、日本では学校の授業で、アメリカでは家庭中心で、が平均的な姿のようです。

しかし、「日本の学校の体育の授業を、自分の学校の子ども達にもやらせてあげたい」との友人の現地小学校の校長先生の言葉にもあるように、「やりたいけれども、出来ない」が、アメリカの現実のようです。